

蚊媒介感染症

蚊にご用心!

蚊媒介感染症とは病原体を持つ蚊に刺されることによって起こる感染症のことです。

主なものには、ウイルスが原因のデング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症、日本脳炎、ウエストナイル熱、黄熱、また原虫によるマラリアなどがあります。

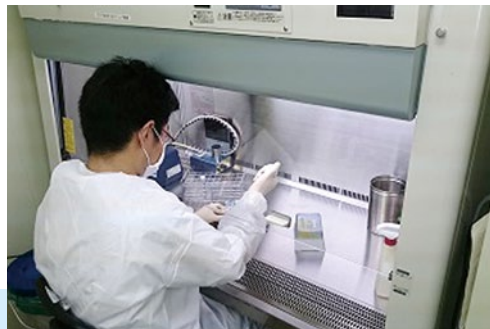
これらの感染症は主に熱帯、亜熱帯地域で流行しており、海外で感染して帰国後に発症する輸入感染症例がほとんどです。しかし、日本に広く生息する蚊（ヒトスジシマカなど）もこれらの感染症の多くを媒介することがわかっています。

国内でこのような感染症が広がらないよう、県民一人一人が予防対策に取り組むことが重要です。



ヒトスジシマカ

(出典：国立感染症研究所 昆虫医科学部)



当センターでは、
これらの感染症
の検査を行って
います

主な蚊媒介感染症

疾患名	主な媒介蚊	発生地域	備考
デング熱	ネッタシマカ ヒトスジシマカ	東南アジア、南アジア、中南米、 カリブ海諸国	平成26年、約70年ぶりに国内感染 例発生
チクングニア 熱	ネッタシマカ ヒトスジシマカ	アフリカ、南アジア、東南アジア など	国内感染はないものの、輸入感染 症例として、年間十数例報告
ジカウイルス 感染症	ネッタシマカ ヒトスジシマカ	中南米、カリブ海諸国、オセアニア、 太平洋諸国 など	輸血・性行為による感染あり 平成27年から中南米を中心に流行
マラリア	ハマダラカ	東南アジア、アフリカ、中南米	輸入感染症例として年間50～70例 報告
ウエスト ナイル熱	アカイエカ チカイエカ ヒトスジシマカ	アフリカ、ヨーロッパ、中東、 中央アジア、西アジア、アメリカ など	国内感染例はない
日本脳炎	コダカアカイエカ	日本 、中国、東南アジア、南アジア	感染しても日本脳炎を発病するのは 100～1,000人に1人程度

当センターにおける検査実施状況

1. 検査件数（ ）内数字は陽性数

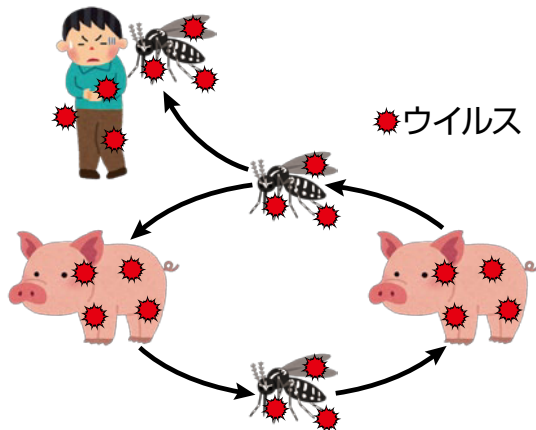
年 度	2014	2015	2016
デングウイルス	6 (2*)	8	10
チクングニアウイルス		1	4
ジカウイルス		2	5
マラリア			3
日本脳炎ウイルス			1

(国立感染症研究所への検査依頼分を含む) ※輸入感染症例



リアルタイムPCRによる遺伝子検査

2. 日本脳炎流行予測調査



日本脳炎ウイルスは、ブタの体内で増えるため、ブタの血液を調べることで、日本脳炎の流行を予測することができます。

当センターでは、夏期に県内のブタの日本脳炎の抗体検査を行っています。

香川県では、毎年、ブタの日本脳炎ウイルスの感染率が高いため、ウイルスを持つ蚊に刺されないよう予防対策をとることが重要です。

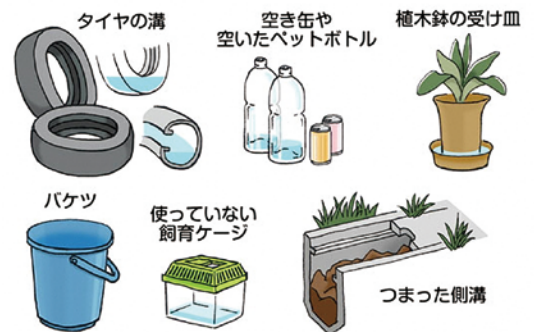
感染予防対策

1. 蚊を発生させない(発生源対策)

- 定期的に幼虫が発生しそうな周辺の水たまりの除去・清掃をしましょう。

植木鉢の受け皿、雨除けのブルーシート、古タイヤ、屋外に放置された空きビン・缶・ペットボトル、詰まった排水溝など。

- 下草を刈るなど、成虫が潜む場所をなくしましょう。



2. 蚊に刺されない(防蚊対策)

- 屋外では長袖、長ズボンを着用するなど肌の露出を避けましょう。
- 虫よけスプレーなどの忌避剤を使用しましょう。

3. 予防接種

日本脳炎など一部の感染症にはワクチンが有効です。



(出典：政府広報オンライン)

海外に行く方に

蚊媒介感染症の発生地域に行く場合は、事前に現地の感染症の発生状況(厚生労働省検疫所ホームページ <http://www.forth.go.jp/>)を確認し、感染予防対策を行きましょう。

こんな研究 やってます ⑦

～低コスト・省スペースの排水処理施設をめざして～

効率的に処理できる低コスト・省スペースの排水処理施設をめざして日々研究しています。
現在は、排水処理による処理水質や処理コストの把握を行っています。

県の排水規制はどうなっているの？

県では川や海の水質保全対策として、条例により小規模事業場等から出る排水規制を行っており、TOC（全有機炭素）160mg/L以下の水質排出基準を設けています。

小規模事業場等からの排水処理には、どんな問題があるの？

小規模事業場等の中には排水が高濃度の場合があり、一般的な好気性排水処理施設を設置して維持管理していく場合、コスト・スペース面での課題が考えられます。

嫌気性処理を活用した排水処理の研究

排水処理には好気性処理と嫌気性処理があります。

嫌気性処理は、酸素がほとんどない状態で、排水中の有機物を炭酸ガスとメタンガスに分解する排水処理方法で、汚泥の発生量が少ないなどの特徴があります。

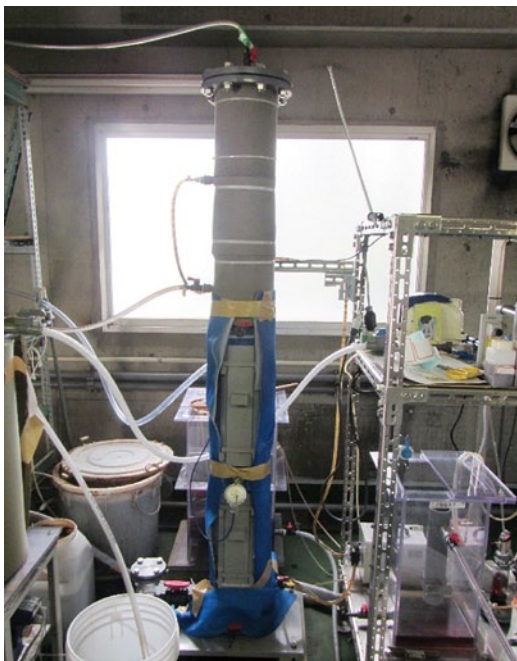
なんだか難しそう?!と思われるかもしれませんが、実は私たちの家庭にある合併処理浄化槽でも使われている排水処理の方法です。

「嫌気性」

酸素の存在する中では活動が困難又は不可能なこと

「好気性」

酸素の存在する中では活動が非常に活発になること



UASB方式の小型排水処理実験装置

この嫌気性処理を活用した排水処理を実用化するため、当センターでは平成27年からUASB方式（Upflow Anaerobic Sludge Blanket）の小型装置を用いて、小規模事業場等の高濃度排水の処理実験を実施しています。



TOC分析装置

詰田川で環境美化活動

6月9日、職員有志で詰田川河岸のゴミを拾いました。この清掃は、「環境の日」及び「環境月間」行事の一環として、平成19年から始めています。

ゴミの量は年々減ってきており、約30分で清掃は完了しました。



今年の夏も涼しさを実感

今年も緑のカーテンを実施しました。緑を目で楽しみ、日差しの強い夏に涼しい日陰を演出しました。



緑のカーテン見学&環境科学教室を実施

夏の節電・省エネ対策になる緑のカーテンの見学や環境学習に関連のある施設見学等を行い、環境問題への関心を高めていただくため、環境科学教室を行いました。

7月25日、5組10人が身近な水（米のとぎ汁や風呂の残り湯など）の水質検査を体験しました。

公共用水域の水質を保全するためには、水質汚濁の大きな原因を占める「生活排水」の対策を進めていくことが大切です。

みなさんも家庭から排出する水の汚れを減らすため、できることから取り組んでいきましょう！



KAGAWA環境研だよりVol.30 平成29年9月

編集・発行 香川県環境保健研究センター

〒760-0065 香川県高松市朝日町5丁目3-105

TEL (087)825-0400 FAX (087)825-0408

E-mail: kanpoken@pref.kagawa.lg.jp

U R L: http://www.pref.kagawa.lg.jp/kankyo/e_center/hoken.htm